

## Ⅱ-3 個に応じた指導

### 先生、その方法、私にぴったり！

#### ☆ 目の前の子どもを意識することが基本

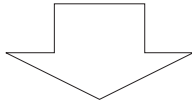


どんなに素晴らしい内容でも、目の前の子どもに合ったもの（内容、方法）でなければ、確かな学力の育成は実現できません。ここでは、授業の流れに沿って「個に応じた指導」について確認しましょう。

#### ☆ 授業を行う前に子どもと教材をしっかり把握

##### ① 子どもの実態を的確にとらえる。

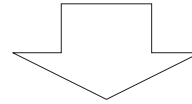
- ・ 子どもの興味・関心は？
- ・ 学習の理解に関する状況は？
- ・ 生活習慣や家庭生活の状況は？
- ・ 子どもの能力や特性は？



- 意識調査などを活用する。
- これまでの授業記録などを活用する。
- 連絡帳や生活記録を活用する。
- 日常の観察記録などを活用する。

##### ② 教材についての理解を深める。

- ・ 子どもに捉えさせたい内容は？
- ・ どのように出会わせるか？
- ・ どんなところでつまづくか？
- ・ どんな考え方ができるか？



- 学習指導要領の内容を確認する。
- 驚きや疑問を引き出す導入を工夫する。
- 具体的な子どもに当てはめて考える。
- 多様な考え方を準備する。

まずは子どもと教材をよく知ることがスタート。  
客観的な調査記録はもちろん、教師間の何気ない会話からの情報や子どもからの情報を集めておくが大いに役立ちます。  
指導内容についても、教師間での情報交換からいろいろな刺激が得られます。一人で抱え込まずにみんなで実践。



#### ☆ 授業の中では、子どもの反応に応じた工夫をする。

##### 導入時

- 子どもの様子が変わったことは？
- 興味・関心を示していない子どもは？
- 課題がつかめていない子ども、見通しが立っていない子どもは？

- 落ち着いて学習に臨めるよう、一人一人の子どもの顔をゆっくり見てみる。
- 子どもにとって意外性のあるもの、認識のずれを感じるものなどを用いて、興味・関心を高める工夫をする。
- 前時の学習内容を確認するような活動を行う。
- ペアやグループで説明したり、確認したりする活動を取り入れる。



授業の導入は最も大切。授業前の準備で対応できること、授業の中で工夫することなどについて、もう一度確認しておきましょう。

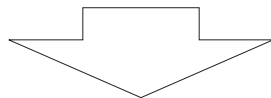
**展開時** 常に子どもの姿に応じた学習指導を心がけましょう。

**子どもの反応に常に注意**

- ・ 動きの止まっている子は？
- ・ きょろきょろしている子は？

**ねらいをしぼった机間指導→P 7**

- ・ 全員をチェック
- ・ 気になる子どもを確認 など



授業での子どもの実態を見ながら、さまざまな手立てを講じることが大切です。

**授業前に計画的に取り組んでおけること**

- グループ活動を取り入れる。→P 12
  - ・ グループ編成の工夫（興味、習熟度など）
  - ・ グループ活動のねらいを明確に → 「全員が説明できるようにする」など
- 子どもの状況に応じたヒントなど手立てを用意する。
  - ・ 子どものつまずきに合わせてヒントカードを準備しておく。  
（状況によっては、全体や個別で再度確認するなどの活動を行うことも大切）
  - ・ 進んでいる子どもについては、発展的な内容を提供する。 など
- 少人数指導、TTなどの充実を図る。
  - ・ 担当教師の打ち合わせの充実、編成の工夫などを行う。

事前に計画しておくことに加え、その時間の中で臨機応変に対応することも大切。  
ねらいは子どもの確かな理解です。



**授業の中で臨機応変に対応できること**

机間指導などで子どもの状況をよく見ることを通して

- 適切な助言（どこを見るのか、何をするのかなど）をする。
- 内容の理解が進んでいない場合は、再度繰り返し指導する。また、理解できている場合には、発展的・応用的な内容へ指導を進める。

**終末時**

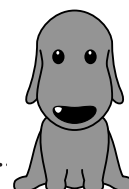
- 学習の定着状況を把握する。  
（ノートや作品などの確認など）
- 把握した状況から、今後の指導の計画を見直す。
- 興味・関心を高める工夫をする。

- 家庭学習での課題を工夫するなど、学習内容の定着を確実にする。
- 次時以降の学習における指導方法の見直しや補足的な学習を行うなどの工夫をする。
- 学習した内容をさらに発展させるような問いかけをする。

**「子どもを生き生きと成長させるのは教師の適切な助け」！**

「学習の主体者である子どもたちは、教師の適切な助けを借りることによって、自分を生き生きと成長させ変化させていくことができるのである。」（斎藤喜博） 教師の適切な助けが、子どもの目を輝かせます。

わん！ポイント！




## ☆ 学習に関心を示さない子どもへの関わりを振り返る。

### ○ 興味・関心を高める工夫をしていますか？

**授業の最初5分間の有効な活用**

- 教師の体験や身近な出来事と絡めた導入  
先生の体験談、おもしろそう！
- 前の時間の振り返り  
これ、前の時間に聞いたことあるなあ
- できる見通しを持たせる導入教材の工夫  
あっ、この問題ならできるかも・・・



**ふと、顔を上げさせる工夫**

- 道具（教具）や映像の活用  
あのビデオ、何かな？見てみよう
- 話し方の変化  
あれ？先生の声が小さくなったぞ どうしたんだろう？
- 子どもの語りの場面の設定  
〇〇さんが、話しているなあ 聞いてみようかなあ

### ○ 子どもが活躍できる場はありますか？


**子どもの心の声、本音は…**

- 話を聞くばかりは嫌（活動欲求） →
- できるようになりたい（達成欲求） →
- みんなに認められたい（承認欲求） →
- 競い合って楽しみたい（競争欲求） →
- 友達と一緒にやりたい（親和欲求） →


**教師の工夫（例）**

- 実験、実習、体験学習の導入
- 放課後学習などの個別指導
- 子ども同士が認め合う活動
- ゲーム的な要素を含んだ活動
- ペア・グループ活動、子ども同士の教え合い活動

なんだか、先生が一人でしゃべっているような・・・？



教師の腕の見せどころだね！




### ○ 「1時間に一度も声をかけなかった…」そんなことはないですか？

- 休み時間に気になる子どもに関わりながら、その流れで授業に入ってみましょう。
- 他の教師との雑談の中で子どものよさを伝え合い、語りかけのきっかけにしましょう。
- 座席の近くまで行き、できていることを見付け、ほめることに努めましょう。

〇〇さん、今日は□□をするよ！

〇〇先生が□□の授業で、ていねいにノートを書いていたと言っていたよ！

今日は、準備物がそろっているね！



### 子どもを学習に向かわせる多くの教師の粘り強い関わり！

学習に関心を示さない子どもへの対応は一人では難しいものです。多くの教師が関わり、背景にあるものを理解しながら小さな進歩を認め、みんなで賞賛していく体制づくりを図っていきましょう。

わん！ポイント！

